

# F-REDD Newsletter

## Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project

Nov 2015 - Oct 2020

### 持続可能な森林管理及びREDD+支援プロジェクト(F-REDD)

本プロジェクトの目的はREDD+に係る戦略策定、実施体制構築、実施のコーディネーションの支援と森林資源情報の整備などに係る能力の強化をはかり、それによってラオスの持続的な森林管理の促進に寄与することです。天然資源環境省森林資源管理局(MONRE-DFRM)と農林省森林局(MAF-DOF)を実施機関として協力しています。

## 森林減少・劣化地域の要因調査

国家REDD+戦略策定の一環としてラオス国全土を対象とした森林減少・劣化地域要因調査が12月から約2ヶ月間の予定で開始されました。この調査は国家レベルのREDD+支援を使命とするF-REDDとFCPF準備プロジェクトが共同でカウンターパートを支援するものです。

調査の目的はリモートセンシングの技術を用いて、それぞれの地域における主な森林減少・劣化ホットスポットを特定し、その要因を分析することです。リモートセンシング技術をもってラオスの森林をモニタリングしている森林調査計画課(FIPD)の職員と、ラオスの全県から各1名ずつ招聘された各現地の実地に詳しい森林官が共同作業を通じて分析を行っています。速報段階では、主要な森林減少・劣化ホットスポットが特定され、またその主な要因も国や地域、森林区分のレベルで特定されることが分りました。

また、この結果を活用して中央と地方の関係者が連携してコンサルテーションを行うことも予定されています。森林減少・劣化の要因は県や地域によって異なる特徴を持っていることから、これらの分析結果は国家REDD+戦略策定に反映されることが期待されています。



上：要因判読のデモンストレーション  
下：県森林官へのリモートセンシング技術研修



上：県REDD+タスクフォースのメンバーに対するREDD+基礎研修。REDD+とはなにか？というテーマでグループディスカッションした結果を発表している様子。  
下：郡の森林官を対象としたセーフガード研修。グループディスカッションを通じて社会的公正に配慮したREDD+実施の重要性を学んでいる。

## REDD+基礎、ジェンダー配慮&セーフガード研修

F-REDDは、アジア・大洋州を拠点として主に森林保全活動をしているRECOFTCとともにJICA-RECOFTC連携パートナーシップのもと、ルアンプラバン県におけるREDD+の理解促進や能力強化の支援を行っています。特に今四半期はREDD+活動の実施に伴う環境・社会への負の影響を緩和させるためのセーフガードの能力強化の支援を行いました。

まず10月に、現場の森林管理を担うルアンプラバン県内12郡の森林官を対象に、ジェンダー配慮や住民参加の重要性を理解するためのセーフガード研修（基礎編）を行いました。また、12月には、ルアンプラバン県のREDD+タスクフォースメンバーを対象に、REDD+に関する基礎的な理解を深めるための研修を実施し、さらに、前回研修に参加した県、郡の森林官を対象としたセーフガード研修（応用編）を実施しました。

例えば、ジェンダー社会配慮については、日常の森林の利用や管理において、男性と女性がどのような役割を果たしているのかグループ討議をしたうえで、森林管理を進めるためには、男女の協同、とくに女性の参画が重要であることを認識してもらう良い機会となりました。一連の研修を通じて得られた知見は、今後の県REDD+活動計画策定やパイロット活動の実施時に活用されることが期待されます。

## NFI 2016-2017 森林・非森林境界年確定調査

調査を担うFIPD調査チームに対する屋内外での事前研修を経て、10月末から今乾季の国家森林インベントリ（NFI）調査が開始されました。前乾季（2015-2016）に引き続き、ラオスの森林資源情報を、特にバイオマス量把握に主眼を置いて調査しています。これによりラオスの森林に蓄積されている炭素量（ならびに、そこから算定される二酸化炭素量）の推定が可能となります。

なお、REDD+では非森林と森林を国の森林定義に従ってきちんと区別する必要があります。焼畑耕作が盛んなラオスでは、リモートセンシングによって焼畑跡地が森林定義を満たす森林へと遷移したと正確に判断するのは難しい課題です。そこで、焼畑跡地がどのくらいの年数で森林に回復するのかを現地調査をもとに推定する調査を5県において行っています。これはUnmanned Aerial Vehicle (UAV)、通称ドローンを用いて撮影された空中写真に基づく樹冠率及び地上調査による胸高直径と、その土地の焼畑耕作後年数を比較することで、森林と非森林を判断する基準（境界年数）を設定しようとする試みです。これまでラオスにおいて、このような焼畑後の森林と非森林の境界年数は明確に分かっていなかったため、調査の結果はラオスの森林バイオマスを算出する上で重要な意味を持っています。

この森林・非森林境界年確定調査においては、森林の定義を満たしていなくとも、森林へ回復するポテンシャルを持っている場所についても、炭素量を推定するために調査区内の一部の植生を刈り取ってバイオマス量を測定しています。これにより、土地状況ごとにさらに精緻な炭素量の把握が可能となります。



上：UAVによる調査の様子  
左：空中写真  
耕作放棄後1年の植生（手前）と耕作地へ転換された土地（奥）  
右：バイオマス刈取調査



## 成果毎の主な活動

### 成果2：REDD+実施による排出削減・吸収増加量の測定支援

- ◆第2回NFI 2016-2017乾季における調査開始
- ◆RELドラフティングチーム設立及び第1回会合
- ◆森林減少・劣化地域の要因調査

### 成果4：ルアンブラバン県のREDD+準備支援

- ◆森林減少抑制及び森林保全強化のための対策協議ワークショップ開催
- ◆JICA-RECOFTC連携プログラムに基づくREDD+基礎研修及びセーフガード研修実施

## コンタクト

### プロジェクトオフィス

Kouvieng Street,  
Sisaket Village,  
Chanthabouli District,  
Vientiane Capital, Laos  
Tel & Fax: 021(22)2536

### プロジェクトHP

[http://www.jica.go.jp/  
project/laos/018/index.html](http://www.jica.go.jp/project/laos/018/index.html)

## 次期四半期のイベント

Jan.

第3回REL/MRV技術作業部会会合

Feb.

第2回JCC (Joint Coordination Committee)  
(未確定)

第13回森林サブセクター作業部会会合  
(未確定)

第3回ルアンブラバン県REDD+タスクフォース会合  
(ルアンブラバン県)  
県REDD+行動計画策定に向けた郡・村落レベルの  
コンサルテーション



天然資源環境省  
Ministry of Natural Resources  
and Environment (MONRE)



農林省  
Ministry of Agriculture and  
Forestry (MAF)



独立行政法人  
国際協力機構